

海外から約20名が視察（農民参加による水管理セミナー）

- 9月8日、アジア各国の農業農村開発技術者を対象とした「農民参加による水管理セミナー」の一環として、群馬用水の視察が行われ、インドネシア、ラオス、フィリピン、タイから約20名が参加しました。
- 質問は、渇水の場合にどのように取水量の調整をするのか？決められた量以上の取水をする者はないのか？など多くの質問がありました。
- 日本では、地域ごとの農業・水道の水利用者が決められた水量できちんと水を使用しており、また、渇水の場合でも、関係者で相談し決めた節水率を守って利用してトラブルは無いと説明すると感心した様子でした。
- その後、赤榛分水工と綾戸取水口を視察。赤榛分水工の遠方操作の仕組みや、利根川サイホンのバイパス水路(併設水路)について、参考にしたいという感想がありました。
- また、施設周辺の畑の作物について、これは何かと質問がありました。畑のコンニャクをみたことが無かったとのことでした。
- 群馬用水の事例を参考に、海外の農業用水の充実にもつなげていただくことを期待しています。



<セミナー概要> 「農民参加による水管理セミナー」主催：(財)日本水土研究所

世界の水需要が今後も増加すると見込まれる中、総需要の約7割を占める農業用水では、かんがい施設の上流域と下流域との配水調整の不平等及び維持管理が適切でないことなどから、効率的な農業用水の供給が困難となっている

そこで、東南アジアを中心とする開発途上国の農民水管理組織が持続的に機能していくために必要な法律や施策など、制度面から支援する方策を検討している【日本水土総研ホームページより】